

の如くある

見よ 今回の一本松婦人傷害事件を!!

されど冷静にして正しき立場と方針とを取らざる我等と公正なる社会の前に  
會社側の陰險なる術策は遂に裁かるの醜体を演じた。  
兄弟よ自重せよ。然して我等が正しき眞実の前に多くの兄弟を結束せ  
しめよ。

◎ 一本松門前 傷害事件の發端。

一月十七日午前七時

角野村字鹿本林に住居する別子銅山鉱夫の婦  
人連鹿本林住居者 五十七名 同じく新田の十名 川西二名 計六十九名  
の者は當日早朝山林麓を出立して金山頂上一本松部落(海拔三千尺に  
ある金山比羅宮に参拝せんと峻しき山道を上った。

斯くて午前十一時 東平探鉱課の上へ一本松部落出入禁止のため特に爭議中會社  
が急送せる(黑門)に到着した。

會社の傭人、現人事係九岡景氏、水野某氏等 堅く門を闔して此  
の婦人連の通行を阻止した。たゞく婦人連の先頭に居た式井ヤリ女  
は不通過の現状を知り、切に閉門せられん事を以て記西氏連に哀訴した

然し九岡氏等は断乎として之れを聞かなかた。

元来一本松金山比羅宮は金山の勞働者、崇拜の宮にして今日迄皆熱心に坂道と  
踏んで参拝したものである。従つて當日に限り之を阻止するが如き事は謂  
れなき事柄である。と信ずる。

此の爲に婦人連は是非通してと繰返して依頼しておたが會社傭人は「此処  
は住友の鉱業地帯だから通す事は出来ぬ皆人なり爲に立てた金山比羅宮様でない  
といふ仲々に閉門しなかつた。

かゝる最中に一本松居住の鉱夫(罷業團員)畑山茂樹氏(老人)が米五升其  
の他を澤山持って上つて来た。阻止した會社傭人は止むなく黑門を少し許り  
開けて之れを通せしめんとした。然し荷物を持って来たため通れず、爲に畑山  
氏は「今少し開けて呉れ」と頼んだ。會社傭人は

「文句を云ふなら通るな」と言ふなり、此が畑山氏を突のけた。

然して傍に居た式井ヤリ女の右乳房の下のアバラを一撃手した

◎ 可憐い女の身なれば一撃手の下に其場に搦倒した。◎  
傭人等は更にヤリ女を蹴る様りつけり等して遂にヤリ女をして人事不省